

治豐國往到豐前國仲津郡中臣村于時日晚僑宿明日味爽忽有白鳥從北飛來翔集此村菟名手即勸僕者遣看其鳥鳥化為餅片時之間更化芋草數千許株花葉冬榮菟名手見之為異歡喜云化生之芋未曾有見實至德之感乾坤之瑞既而參上朝廷舉狀奏已上奉聞天皇於茲歡喜之有即勸菟名手云天之瑞物地之豐草汝之治國可謂豐國重賜姓曰豐國直因曰豐國後分兩國以豐後國為名

〔倭訓栞中編十六〕とよくに豊かなる國の義也神代紀に豊國主尊まします九州の豊前豊後もと豊國といひたり義字の如し

〔古事記傳五〕豊國は登與久邇と訓べし何書にも皆然有りと登與乃久爾最も後に二國に分れて和名抄に豊前止與久爾乃豊後とあり分れしは何時ともしれずさて書紀景行卷十二年下に遂幸筑紫到豊前國長峽縣興行宮而居故號其處曰京也冬十月到領田國其地形廣大亦麗因名領田也とあり風土記にも此事ありされば其國の大名を豊國と云も此意なるべし豊はゆ大きなる意なり豊後國風土記の豊國の名の説はいかゞ領田は後に郡となれり和名抄に豊後國大分郡これなり又大隅國記の豊國の名の説はいかゞ領田は後に郡となれり桑原郡にも大分豊國てふ二郷ならびてあり是は別ながら由あることなるべし

〔豊前志一論〕按ずるに豊國の前後と二に分れしは何の御世にかあらむ先づ國史に見えたるは日本紀景行天皇十二年の下に遂幸筑紫到豊前國と有ぞ始なる然れば其より以前か將別れしは後なれど前へ及して如是は書る歟古事記志賀宮卷に定賜國々の堺と云ことありまた姓氏國境之標因賜姓坂合連と云ことも見えたり此の二御世の際に分られたるにてもありぬべし

〔日本書紀七景行〕十二年九月天皇遂幸筑紫到豊前國長峽縣興行宮而居

〔古事記上〕伊邪那岐命中妹伊邪那美命中御合中次生筑紫島此島亦身一而有面四每面有名故中豊國謂豊日別

〔先代舊事本紀十造〕豊國造